

流行ニュース：<鳥インフルエンザ、中国¹>

2006年1月10日、中国厚生省はヒトがH5N1鳥インフルエンザウイルスに感染した8例目の症例を確認した。その患者は、湖南省の南部に住む6歳の少年であった。中国で確認された8症例のうち5例が死亡した。新たに確認された症例の調査により、感染源の可能性が家禽の死にあると見なされた。湖南省以外に安徽省、福建省、広東省、江西省、遼陽省でヒトにおけるH5N1の感染症例が報告されている。

参照¹：No.1,2006,p.1

<鳥インフルエンザ、トルコ>

*2006年1月9日：

トルコで行われた研究所試験により新たに10人の患者のサンプルから鳥インフルエンザのH5サブタイプの検出が確認された。そのうち5人は2006年1月8日に、残りの5人は1月9日に厚生省によって報告された。ほとんどの患者は治療や診断のために入院していた子供であった。新たに研究所で確認された症例はトルコにおいて計14例であり、そのうち2例は致命的であった。

H5N1型はH5サブタイプの中でヒトに感染すると知られている唯一の株種である。鳥のH5N1型の集団発生により、ヒトにおける鳥インフルエンザ症例は同じウイルス種によるものであると予想される。

最初の調査では、ウイルスが伝染性を増していることやヒトからヒトに伝播することの証拠は確認されなかった。患者の多くは子供であり、たいてい同じ家族からである。そしてほとんどの患者が、死んだ鳥や病気の鳥と関わっている。家禽の集団発生は現在様々な場所で起こっていることが知られている。最近、農業省は国の81省のうち10省で鳥におけるH5N1型の集団発生を確認している。現在、疾患に対する関心が高いことや、国のいくつかの場所で鳥における感染の存在により、感染について心配する人の数が増加すると予想される。付加的な援助として疫学的状況の理解を広めるべきであり、そして効率よく確認し、可能な限り感染源から人々を離したりすべきである。

*2006年1月10日：

トルコでの研究所での検査により、H5N1型鳥インフルエンザウイルスによるヒトにおける国内15例目の感染が確認された。患者は37歳の女性で病気の鳥との接触があった。

トルコ政府は、国民の認識を高めるキャンペーンを開始した。鳥の疾病コントロールが出来なくても鳥の疾患流行の上体に関するデータがより完全になれば、国民が疾患をよりよく理解することができ、ヒトが感染するリスクを減少させる手助けとなるだろう（鳥における疾患コントロールが差し迫っている）。確認症例や検査中の人々の多くは子供であるので、危険度の高い行為についての助言が子供に届くことが特に重要である。現在の状況に対応するためにトルコの厚生省により、タミフルを鳥インフルエンザの治療と予防に使用するように考えられた。

今週の話題：

<ワクチン安全性に関する世界諮問委員会（GACVS）2005年12月1-2日>

GACVS¹は第13回目の会議を2005年12月1-2日にスイスのジュネーブで開催した。

*ワクチン安全性ネットワーク：

ワクチン安全性ネットワークプロジェクトの現在の状態に関して最新情報が提供された²。そのプロジェクトはインターネットを介して、ワクチンの安全性に関する情報の世界的な普及を改善することを目的とする。2005年の主な活動は、現場評価のプロセスの強化とヨーロッパでのネットワーク拡大に力を注ぐことが含まれた。2006年以内に、ネットワークはカナダ、アメリカ合衆国、西ヨーロッパのほかの地域や国に広がるだろう。

*パンデミックインフルエンザワクチンに関連した安全性問題：

インフルエンザが世界的に流行する場合、予防的なインフルエンザワクチンが緊急に必要とされるであろう。WHOは流行および世界的流行に対する世界におけるインフルエンザワクチンの不足に対処するため抗原の使用を節約する予防接種戦略を促進している。GACVSはパンデミックインフルエンザが流行した場合に対し、次のような勧告を作成した：パンデミックインフルエンザワクチンを早期に査定できるように製薬のガイドラインを発展させる：季節的なインフルエンザワクチンを評価するためにこのようなガイドラインの発展を促進する：アジュバントとともに不活化インフルエンザワクチンの安全性と効能の再検討を発展させる。

*アジュバントの安全性：

アジュバントの安全性とそれを査定するための前臨床モデルの使用は、2005年12月4-8日にアジュバントに関するWHO会議で議論されるはずであった。スクアレン含有アジュバントはすでに認可されたインフルエンザワクチンの1つにすでに使用され、そしてパンデミックインフルエンザのためのアジュバントの候補でもあるので、スクアレンの安全性を査定することは重要であるだろう。

* ロタウイルスワクチンの安全性 :

米国の疫病管理予防センター (CDC) は幼少期の 60 日以降に接種を受けた幼児よりも 60 日以前に接種を受けた幼児に腸重積の関連リスクが低いことを示した。腸重積の年齢依存リスクは、現在開発されている 2 つの新しいロタウイルスワクチンによるものかもしれないと委員会に提案された。CDC は 60 日以降に接種を受けた幼児に高い関連リスクを確認した。委員会は、60 日以降に接種を受けた幼児では、RotaShield (ロタ遮蔽剤) に関係した腸重積のリスクが高いことを明らかにし確認した。一方で、60 日未満の幼児への RotaShield の使用は、腸重積との関連が低いという証拠は十分ではないと結論付けた。

* 亜急性硬化性全脳炎 (SSPE) と麻疹ワクチン :

委員会は SSPE の疫学的性質、麻疹免疫と SSPE の発生との関連を検討した。早期に感染した麻疹患者はリスクが高いかもしれない (麻疹患者 10000 人中 18 例) が、SSPE の実際の発生率は麻疹患者 100,000 人中約 4 - 11 人であると示された。麻疹コントロールが良い多くの国では、SSPE の増加している年は、SSPE 流行と同時に麻疹感染者がみられた。しかし、SSPE ウイルスの潜伏期間のために、麻疹感染による SSPE 発生率の影響が見られるには少なくとも 5 年かかっていた。入手できた疫学的データからはウイルス遺伝子型データと一致して、麻疹ワクチンウイルスは SSPE を誘発しないことが示唆されている。

* 慢性疲労症候群と B 型肝炎ワクチン接種 :

B 型肝炎ワクチン接種と慢性疲労症候群との関係がカナダで報告されているが、委員会はその関係を支持するための根拠がないと結論付けた。

* 結合型髄膜炎菌ワクチンとギランバレー症候群 (GBS) :

GBS の数症例が結合型髄膜炎菌ワクチンの導入によるものであると最近アメリカで報告された。報告症例数は、人口に対して GBS の予想される数と同様であったため、ワクチン接種政策の変更は提案されなかった。 参照¹ : No.41, 1999, pp.337-33、

参照² : http://www.who.int/immunization_safety/safety_quality/vaccine_safety_websites/en/

< 新しい結核治療は短期間の治療を提供する >

* 臨床試験第 3 段階がアフリカで計画された :

結核治療期間を劇的に短縮する新しい併用治療法の臨床的効果が 2006 年 12 月 16 日提出された。gatifloxacin を含んだ療法の第 2 段階の試験結果は、よい治療であることを証明している。その療法は現在推奨されているイソニアジド、リファンピシン、ピラジナミド、エタンブトールの 6 ヶ月療法よりも有意に効果があり、gatifloxacin がエタンブトールの代わりに使用されたとき、基本的な 6 ヶ月の療法は 4 ヶ月に短縮できる可能性がある。WHO に基づく熱帯病の研究と教育に対する特別プログラム (TDR) は、この新しい治療の発展のために活動している。この治療が最も進んだ短期間の結核療法であり、もし良い効果が続けば、2009 年の終わりまでに一般に入手できるであろう。

世界人口の 3 分の 1 が、結核の原因である *Mycobacterium tuberculosis* に感染し、活性型の人は毎年約 800 万人である。HIV/AIDS の世界的域流行は、この病気の発生率を劇的に増加させている。短期間の結核療法は、治療を改善し、多剤耐性結核菌の蔓延を防ぐだろう。

第 2 相の試験は、最近新たに診断された肺結核患者で、HIV に感染している患者と感染していない患者により、南アフリカ医学研究協議会によって行われた。基本的な WHO 推薦の治療と、ofloxacin または moxifloxacin 含有であるほかの 2 つの似た療法と比べて治療の最初の 2 ヶ月に対する治療による抗結核活性を測定する予定だった。Gatifloxacin または moxifloxacin 含有療法の治療は、治療の 2 ヶ月後、基本的な療法または ofloxacin 含有療法よりも有意に効果が認められた。アフリカで行われている第 3 相試験は、4 ヶ月間 gatifloxacin 含有療法が現在の基本的な 6 ヶ月の療法と同等であるかどうかを、明確に査定するようにアフリカで計画されている。臨床的試験の場所は、新しい短期間の治療法を発達させるために設立されたヨーロッパとアフリカの共同事業体である (OFLOTUB 財団)。

* WHO/TDR について :

TDR は 1975 年に設立された科学共同研究の世界的なプログラムである。世界の改善されるべき取り組み、病気の予防、診断、治療、コントロールの新しい方法の開発とともに、貧困により放置された病気を研究している。

* OFLOTUB 財団について :

結核の治療における gatifloxacin 含有の 4 ヶ月行う治療法の安全性と効能を試験するための第 2 段階と第 3 段階の試験を企てるために 2002 年に始められた。EU の後援の下に設立され、フランスのパリの IRD によって作られた。財団の目的は、研究能力の発展とアフリカの国際的基本の治療に関して臨床的試験を行うために組織の補強に貢献することである。

* IRD について :

1944 年に認められ、社会科学と技術研究を行う研究所である。IRD の活動の目的は南の国が直面している社会、健康、地球、環境、資源の主な発展に応じることである。 (谷出昌子、西山馨、高田哲)